

<平成26年3月期 第1四半期決算参考資料> (連結)

	前第1四半期実績 平成25年3月期 (A)	当第1四半期実績 平成26年3月期 (B)	第2四半期連結 累計期間予想 平成26年3月期 (C)	通期予想 平成26年3月期 (D)
売上高	4,193 億円	4,094 億円	10,000 億円	22,700 億円
営業利益 <利益率>	149 億円 <3.6%>	160 億円 <3.9%>	360 億円 <3.6%>	1,000 億円 <4.4%>
		(増益要因) 為替 104 億円 資材費等コスト低減 60 億円 その他 12 億円 (減益要因) 台数・車種構成等 ▲ 99 億円 販売費用 ▲ 66 億円 対前年 変動計 (B-A) 11 億円		(増益要因) 台数・車種構成等 280 億円 為替 280 億円 資材費等コスト低減 200 億円 (減益要因) 販売費用 ▲ 260 億円 その他 ▲ 174 億円 対前年 変動計 326 億円
経常利益 <利益率>	142 億円 <3.4%>	223 億円 <5.4%>	340 億円 <3.4%>	900 億円 <4.0%>
四半期(当期) 純利益 <利益率>	200 億円 <4.8%>	164 億円 <4.0%>	190 億円 <1.9%>	500 億円 <2.2%>
為替 (売上レート)	80 円/US\$ 106 円/ユーロ	98 円/US\$ 127 円/ユーロ	96 円/US\$程度 125 円/ユーロ程度 (第2四半期: 95円/US\$) (第2四半期: 125円/ユーロ)	96 円/US\$程度 125 円/ユーロ程度 (第2四半期以降: 95円/US\$) (第2四半期以降: 125円/ユーロ)
設備投資 (計上ベース)	121 億円	182 億円		800 億円
減価償却費	122 億円	132 億円		600 億円
研究開発費	141 億円	167 億円		730 億円
有利子負債 残高	3,004 億円	3,143 億円		
総資産	12,320 億円	13,991 億円		
売上台数	258 千台	250 千台	597 千台	1,363 千台
国内	40 千台	51 千台	133 千台	322 千台
海外	218 千台	199 千台	464 千台	1,041 千台
生産台数	252 千台	271 千台		
国内	124 千台	134 千台		
海外	128 千台	137 千台		
業績評価		減収・営業利益増益		

三菱自動車、2013年度第1四半期決算を発表

三菱自動車は本日、2013年度(2014年3月期)第1四半期決算を発表しました。

1. 業績概況

2013年度第1四半期(2013年4月1日～6月30日)の売上高は、卸売台数が減少したことにより、前年同期比99億円(2%)減の4,094億円となりました。

営業利益は、卸売台数の減少や、広告宣伝費など販売費の増加はあったものの、為替の好転や、資材費等コスト低減などが寄与し、前年同期比11億円(7%)増の160億円となりました。

経常利益は、為替差益の計上等による営業外損益の好転に伴い、前年同期比81億円(57%)増の223億円となりました。また当期利益は、前年計上した株式売却益114億円の特別利益要因がなくなったことで、前年同期比36億円(18%)減の164億円となりました。

2. 販売台数(小売)

2013年度第1四半期の販売台数は、前年同期比10千台(4%)増の249千台となりました。

日本では、6月に発売した新型軽自動車『eKワゴン』、『eKカスタム』が好調な滑り出しを見せたものの、その他のモデルが振るわず、前年同期比2千台(6%)減の28千台となりました。

北米は、昨年7月に現地生産を開始した『アウトランダースポーツ』の販売が堅調に推移した一方、同年生産を終了した『ギャラン』の減少の影響を受け、米国における販売台数は減少しましたが、カナダ及びメキシコの販売台数が前年同期を上回ったことから、地域全体としては前年並みとなる23千台となりました。

欧州は、西欧地域において総需要が減少する中、当社の販売台数は新型『アウトランダー』や新型『ミラージュ』の投入効果もあり前年を上回りました。また、西欧以外の地域における販売台数も前年並みを維持し、地域全体としては前年同期比1千台(1%)増の47千台となりました。

アジア及びその他の地域については、タイ政府によるファーストカーバイヤープログラムが昨年末に終了したことの影響を受け同国での販売が減少したことからアセアン地域の販売台数は前年を下回りましたが、アセアンを除く各地域(北アジア、豪州・ニュージーランド、中南米、中東・アフリカ)の販売がいずれも前年を上回り、全体としては前年同期比11千台(9%)増の151千台となりました。

3. 2013年度業績見通し

本年4月25日に公表した2013年度第2四半期累計期間の連結業績見通し及び通期連結業績見通しについては、第1四半期を経過した段階で概ね計画通りに推移していることから、変更はありません。

以上

【お問い合わせ先】

広報部 企業広報担当: 地引、村田

企業広報代表 03-6852-4274

本資料に記載されている将来に関する記述を含む歴史的事実以外のすべての記述は、現時点における当社の予測、期待、目標、想定、計画、評価等を基礎として記載されているものです。また、予想数値を算定するために、一定の前提(仮定)を用いています。これらの記述または前提(仮定)については、その性質上、客観的に正確であるという保証や将来その通りに実現するという保証はありません。これらの記述または前提(仮定)が、客観的には不正確であったり、将来実現しない原因となるリスク要因や不確定要因のうち、現在想定しうる主要なものとしては、本計画の各種目標・各種施策の実現可能性、金利・為替・原油価格の変動可能性、関係法令・規則の変更可能性、日本国内外の経済・社会情勢の変化可能性等があげられます。

なお、潜在的风险や不確定要因はこれらに限られるものではありませんので、ご注意ください。また、当社は、将来生じた事象を反映するために、本資料に記載された情報を更新する義務を負っておりません。投資に関する最終的な決定は、投資家の皆様ご自身の責任をもってご判断ください。本資料に記載されている情報に基づき投資された結果、何らかの損害が発生した場合でも、当社は責任を負いかねますので、ご了承ください。

2013年度 第1四半期業績の概況



『アトラージュ』

三菱自動車工業株式会社

2013年7月30日

2013年度第1四半期業績サマリー【前年同期対比】

**売上高は減少したものの、営業利益は増益
期初公表の計画線で推移**

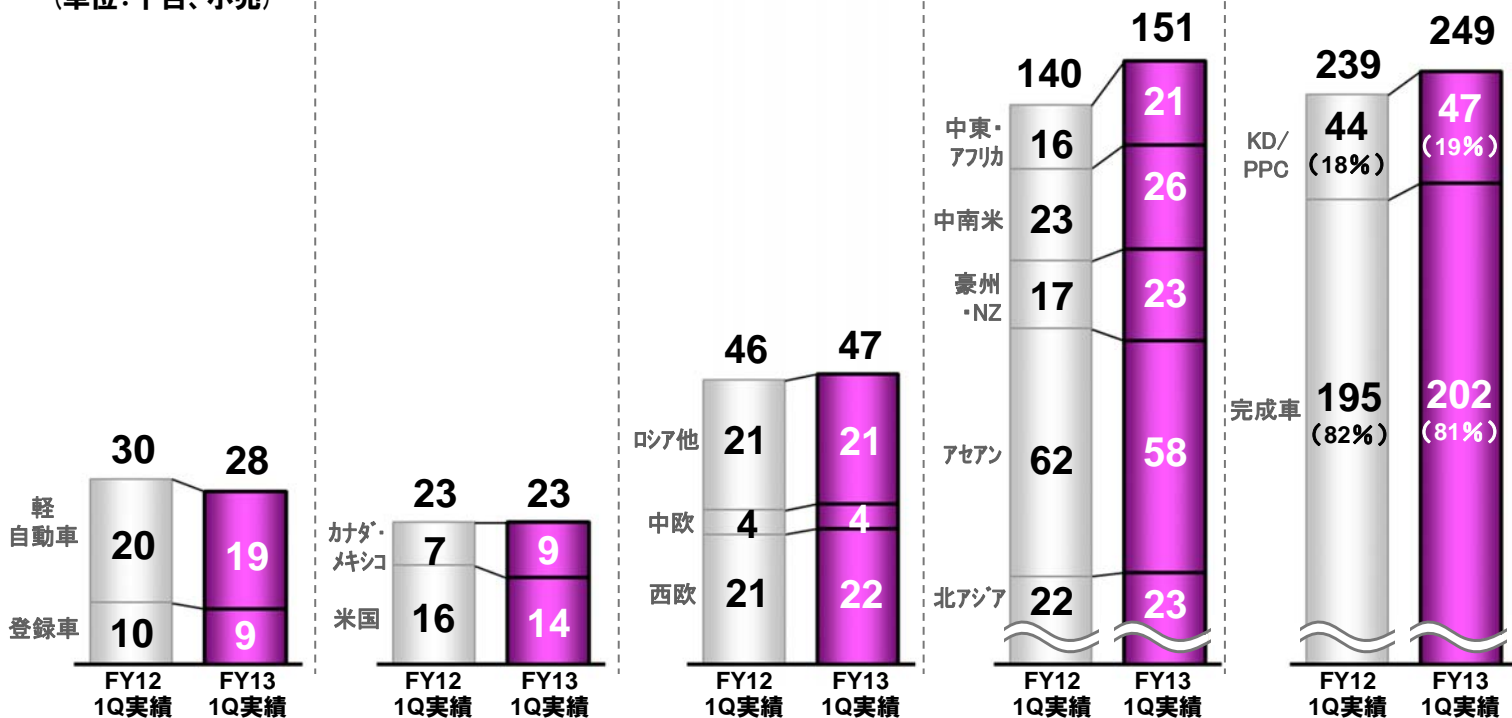
	FY12 1Q 実績①	FY13 1Q 実績②	差 ②-①	(単位: 億円、千台) FY13 2Q累計 4/25公表値
売上高	4,193	4,094	- 99	10,000
営業利益	149	160	+11	360
経常利益	142	223	+81	340
当期利益	200	164	- 36	190
販売台数(小売)	239	249	+10	544
販売台数(卸売)	258	250	- 8	597
うち OEM台数・共同開発車等	(22)	(31)	(+9)	(85)

※注) 13年度第1四半期販売台数実績は速報値。

地域別販売台数実績【前年同期対比:小売ベース】

日本	北米	欧州	アジア・その他地域	合計
《前年同期対比増減》 - 2 (- 6%)	± 0 (± 0%)	+ 1 (+ 1%)	+ 11 (+ 9%)	+ 10 (+ 4%)

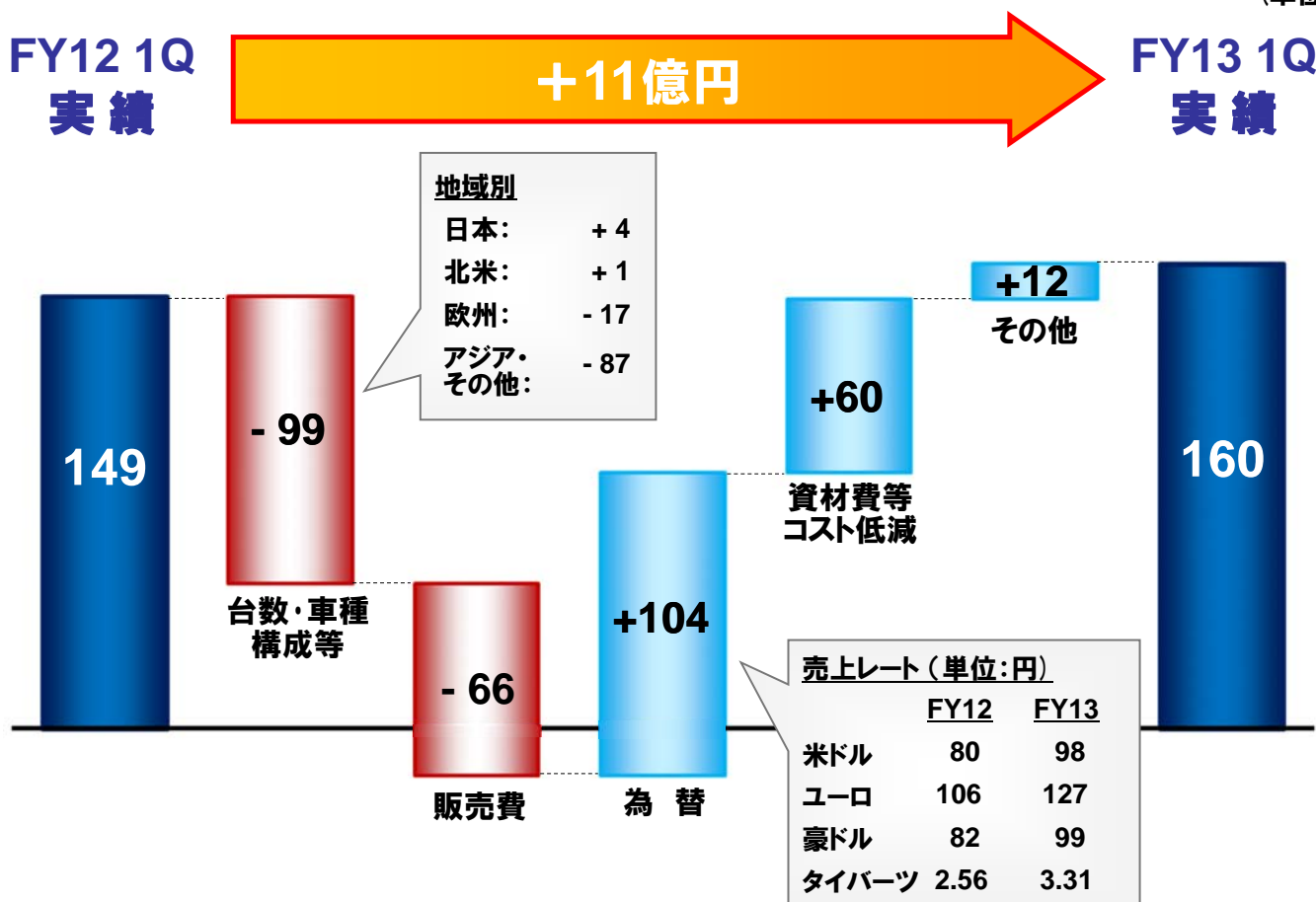
(単位:千台、小売)



※注) 13年度第1四半期販売台数実績は速報値。

営業利益増減分析【前年同期対比】

(単位: 億円)



經常利益・当期利益【前年同期対比】

(単位: 億円)

	FY12 1Q 実績①	FY13 1Q 実績②	差 ②-①
営業利益	149	160	+11
営業外損益	-7	+63	+70
經常利益	142	223	+81
特別損益 及び法人税等	+58	-59	-117
当期利益	200	164	-36

広汽長豊株式会社売却益: +114億円

貸借対照表【前年度末対比】

(単位: 億円)

	FY12末 ('13/3月末)	FY13 1Q末 ('13/6月末)	増減
資産合計	14,528	13,991	-537
うち 現金預金	4,095	3,493	-602
売上債権	1,496	1,203	-293
たな卸資産	2,023	2,315	+292
負債合計	11,016	10,300	-716
うち 仕入債務	3,138	2,970	-168
有利子負債	3,644	3,143	-501
純資産合計	3,512	3,691	+179

2013年度1Q実績:売上高は減少したものの、営業利益は増益 期初公表の計画線で推移

- 販売台数(小売): 前年同期比 4%増加の249千台
- 販売台数(卸売): 前年同期比 3%減少の250千台
- 売上高 : 前年同期比 2%減収の 4,094億円
- 営業利益 : 前年同期比 7%増益の 160億円
(台数・車種構成等、販売費が悪化したが、為替や資材費等コスト低減の好転などにより増益)
- 経常利益 : 前年同期比 57%増益の 223億円
- 当期利益 : 前年同期比 18%減益の 164億円

2013年度見通し:上期(2Q累計)・通期業績見通しともに期初公表どおり

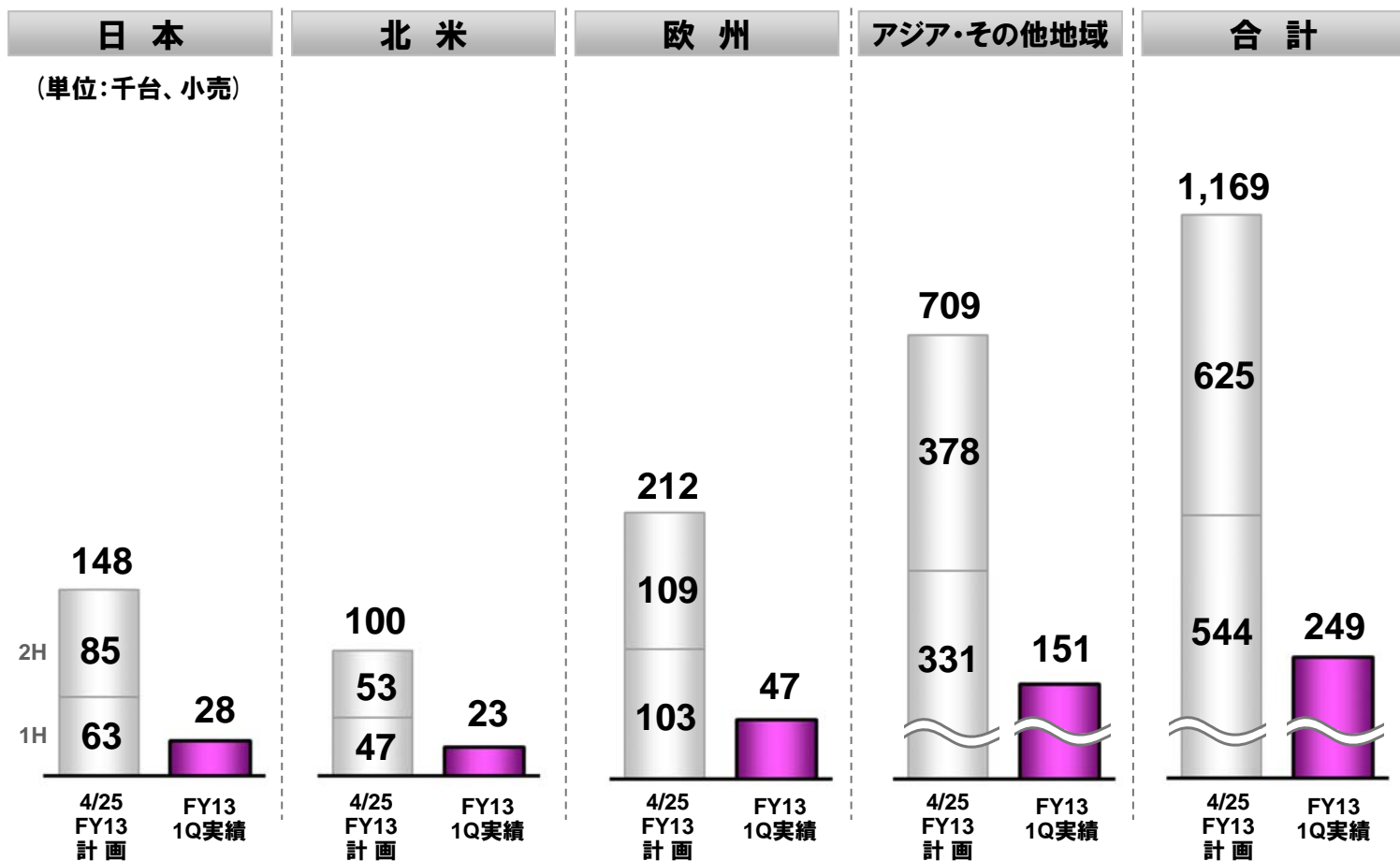
- 販売台数(小売): 前年比 18%増加の1,169千台
- 販売台数(卸売): 前年比 22%増加の1,363千台
- 売上高 : 前年比 25%増収の 2兆2,700億円
- 営業利益 : 前年比 48%増益の 1,000億円
- 経常利益 : 前年比 4%減益の 900億円
- 当期利益 : 前年比 32%増益の 500億円

添付資料



『eKワゴン』

地域別販売台数実績【計画対比:小売ベース】



※注) 13年度第1四半期販売台数実績は速報値。

地域別業績【前年同期対比】

(単位: 億円)

	FY12 1Q 実績①	FY13 1Q 実績②	増減 ②-①	FY13 2Q累計 4/25公表値	FY13 通期 4/25公表値
売上高	4,193	4,094	-99	10,000	22,700
- 日本	745	842	+97	1,900	4,700
- 北米	430	443	+13	1,000	2,100
- 欧州	981	849	-132	2,200	5,100
- アジア・その他	2,037	1,960	-77	4,900	10,800
営業利益	149	160	+11	360	1,000
- 日本	-28	-58	-30	-140	-150
- 北米	-74	-23	+51	-30	-40
- 欧州	-41	47	+88	70	200
- アジア・その他	292	194	-98	460	990

日産自動車、三菱自動車とNMKV、協業による新型軽自動車の
オフライン式を実施



2013年5月20日

新世代グローバルコンパクトセダン『アトラージュ』を7月よりタイで販売開始
～クラストップレベルの低燃費22km/Lを実現し、タイ政府のエコカー認定を取得～



『アトラージュ』

新型『アウトランダー』が平成24年度自動車アセスメント(JNCAP)で
最高評価となる「JNCAPファイブスター賞」、「JNCAP大賞」を受賞

- 最高評価となる「新・安全性能総合評価ファイブスター賞(通称:JNCAPファイブスター賞)」を受賞
- 更に、JNCAPファイブスター賞対象車のうち、評価得点がこれまでの最高得点を超えたクルマに与えられる「JNCAP大賞」も受賞
- また、欧州では、欧州仕様車に搭載している「衝突被害軽減ブレーキシステム(FCM)」が、「ユーロNCAPアドバンスド賞」を受賞



新型『アウトランダー』



パイクスピーク・インターナショナル・ヒルクライム2013
『MiEV Evolution II』が電気自動車クラス2位、3位でフィニッシュ



『MiEV Evolution II』

本資料に記載されている将来に関する記述を含む歴史的事実以外のすべての記述は、現時点における当社の予測、期待、目標、想定、計画、評価等を基礎として記載されているものです。また、予想数値を算定するために、一定の前提(仮定)を用いています。これらの記述または前提(仮定)については、その性質上、客観的に正確であるという保証や将来その通りに実現するという保証はありません。これらの記述または前提(仮定)が、客観的には不正確であったり、将来実現しない原因となるリスク要因や不確定要因のうち、現在想定しうる主要なものとしては、本計画の各種目標・各種施策の実現可能性、金利・為替・原油価格の変動可能性、関係法令・規則の変更可能性、日本国内外の経済・社会情勢の変化可能性等があげられます。

なお、潜在的リスクや不確定要因はこれらに限られるものではありませんので、ご留意ください。また、当社は、将来生じた事象を反映するために、本資料に記載された情報を更新する義務を負っておりません。投資に関する最終的な決定は、投資家の皆様ご自身の責任をもってご判断ください。本資料に記載されている情報に基づき投資された結果、何らかの損害が発生した場合でも、当社は責任を負いかねますので、ご了承ください。

Drive@earth



MITSUBISHI MOTORS